

# 横田英史の 書籍紹介コーナー



## ソニー半導体の奇跡

～お荷物集団の逆転劇～

斎藤端

東洋経済新報社 1,760円(税込)

2019年に半導体売上が1兆円を超えたソニー。その売上の90%を占めるイメージセンサーの開発史と半導体事業の歴史を、元ソニー半導体事業本部長が紹介した書。CCDからCMOSへの転換、PlayStation 3のCellチップなど技術的な話題もあるが、本書の真価は筆者の上司から部下までの人物評がてんこ盛りで出てくることだろう。井深、盛田、大賀、久夛良木、ストリンガー、平井などの歴代経営者だけでなく、技術者を中心にソニーマン(女性は出てこない)が次々に登場する。多すぎて頭が混乱するほどだ。

さすがにデイスる相手の実名は登場しないが、かなり際どい人物評もある。成果をあげたのに人事で評価されない技術者、退社してサムスンに転職する開発のエース、君子豹変を地で行く豪腕幹部など、いずれも変わらない会社員の悲哀が感じられる。

## テクノロジーの世界経済史

～ビル・ゲイツのパラドックス～

カール・B・フレイ、

村井章子・訳、大野一・訳

日経BP 3,520円(税込)

「イノベーションがこれまでにないペースで次々に出現しているというのに……アメリカ人は将来についてますます悲観的になっている」という、ビル・ゲイツのパ

ラドックスの当否を探った書。歴史を学ぶことの大切さを教えてくれる1冊である。

筆者は、第1次産業革命、第2次産業革命…など、技術革新とそれに対する人々(主に労働者)のスタンスに普遍的な関係があることを明らかにする。「歴史は繰り返すことないが、韻を踏む」という名言を思い起こさせてくれる。

蒸気機関、電力、コンピュータなどの登場で何が起こったかを順を追って論じる。電動化や自動化、コンピュータ化は、それに見合った組織の変更、作業や工程の変更が行われたときに初めて生産性向上に寄与する。作業の流れと事業のプロセスを分析・再設計することが欠かせない。

## AIの倫理学

M. クーケルバーク、直江清隆・訳

丸善出版 2,640円(税込)

AI倫理の第一人者が、深くかつ広くAIの倫理を論じた書。リスクや倫理について理解していない人間が、調教されていないAIを使う危なさを訴える。古代ギリシアや古代宗教に遡るとともにSFにも言及し、懐深く哲学的な考察を加える。科学者や技術者への提言を盛り込む。欧州諸国の対応状況やIEEEでの議論など最新の話題をカバーしており勉強になる。

AIを論ずることは、人間の社会や知識、道徳を論ずることだと指摘する。例えば機械学習には、アルゴリズムやデータセットの選択などに人間の倫理的側面

が介在する。スーパーインテリジェンスを備えたAIに権利を与えるべきか、AIが身近になったときにAIに対する虐待をどう扱うべきか(犬型AIロボットを蹴ってもいいのか)、AIの道徳的責任をどうするべきか、AIの説明責任をどう考えるかなど多角的に議論を進める。

## 恐れのない組織

～「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす～

エイミー・C・エドモンドソン、野津智子・訳  
英治出版 2,420円(税込)

組織における心理的安全性の重要性を事例とともに紹介した書。対人関係の不安が組織を蝕む例として、フォルクスワーゲンや福島第一原子力発電所などを挙げる。逆の事例としてはピクサーやハドソン川の奇跡を起こしたUSエアウェイズなどを紹介する。

知的集約型組織がより効果的に活動するには、心理的に安全な職場でなければならない。心理的安全性は、対人関係のリスクをとっても安全だと考えられる職場環境で担保される。不安は学習を妨げ、分析的思考や創造的考察をできなくする。イノベーションには、不安を抱くことなく率直に発言できる心理的安全性が不可欠というわけだ。

福島第一原発事故の根本原因は、盲従的服従や権威に異を唱えないカルチャー、計画を何が何でも実行しようとする姿勢、集団主義、閉鎖性にあるとの指摘は耳が痛い。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。

川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マゴロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、

同副編集長、BizIT(現xTECH)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。

2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、

2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。

2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、

2019年6月当協会理事、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

\*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

